

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

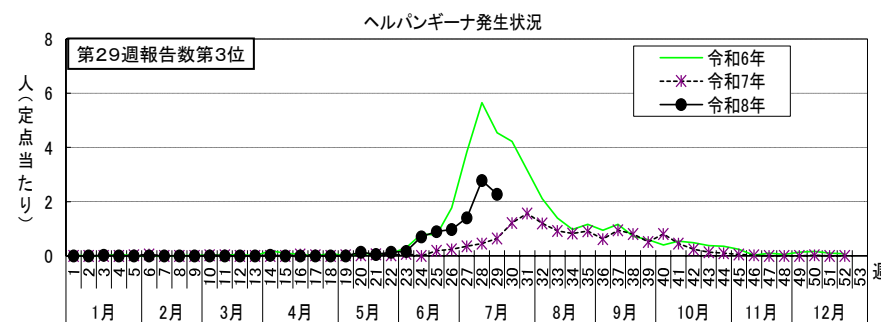
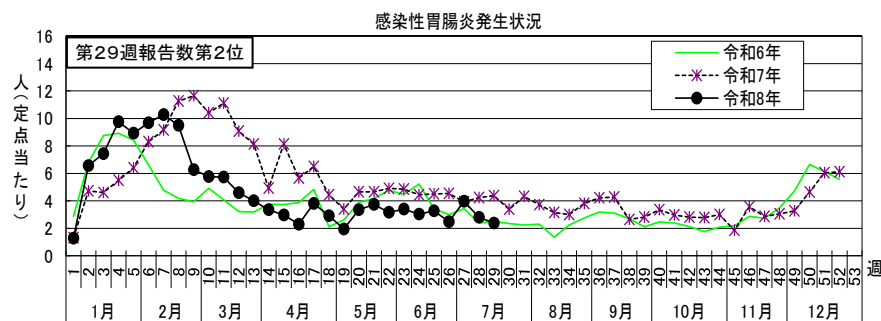
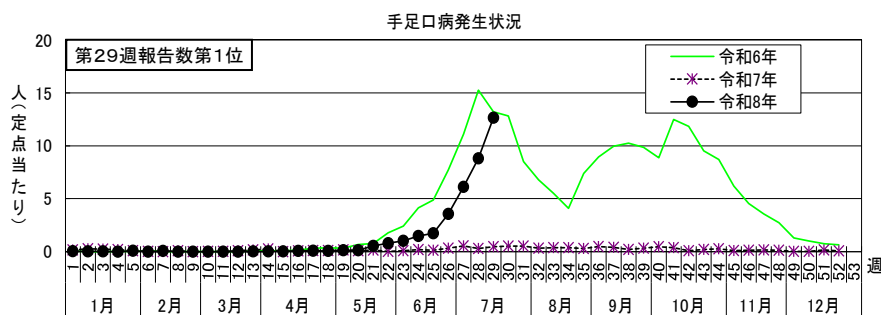
令和8年7月13日（月）～令和8年7月19日（日）〔令和8年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）感染性胃腸炎 3）ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は12.65人と前週（8.86人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.38人と前週（2.73人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.27人と前週（2.78人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



妊婦対象のRSウイルスワクチンの定期接種を実施しています！

RSウイルス感染症に罹患すると、特に生後6か月以下の乳児は細気管支炎や肺炎等を起こし重症化することがあります。免疫を獲得する力が乏しい生後まもない乳児に対しては、妊婦が代わりにRSウイルスワクチンを接種し、母体で作られた抗体をお腹の赤ちゃんに移行させることで、出生時から免疫をつけることができます。国内では、今年度から乳児の重症化予防のために妊婦を対象とした定期予防接種が始まりました。

川崎市における令和8年第29週（7月13日～19日）の定点当たり報告数はまだ0.32人ですが、流行状況によらず、いつでも乳児を守れるよう、対象の方は接種を御検討ください。

RSウイルス感染症とは？

【感染経路】

飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

2～8日（典型的には4～6日）

【症状】

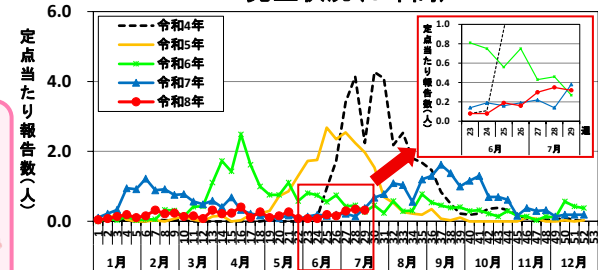
発熱・咳・鼻汁等の風邪様症状

【予防対策等】

- ・体調不良の大人はマスク着用
- ・流水とせっけんによる手洗い
- ・おもちゃ、手すり等の消毒
- ・ワクチン接種（種類によって対象者が異なります。）



川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況（5年間）



RSウイルスワクチンの定期接種について

令和8年度から妊婦の方へのRSウイルスワクチンが定期接種となりました。川崎市においても妊娠28週0日～妊娠36週6日にある妊婦の方を対象に接種を実施しています。詳しくは川崎市のホームページをご覧ください。